

和地ひとみレポート No.360



毎年実施される市民意識調査報告書

調査結果をどのように活かしたかも知りたい

■市民意識調査報告書

…毎年、市が実施している市民意識調査。今年は2月14日～3月15日に実施され、その調査報告書がこのたび完成しました。(今後、この内容は市のホームページでも公開予定。)

…この調査は東大和市第二次基本構想(平成14年～平成33年度)で示す将来の都市像の『人と自然が調和した生活文化都市 東大和』を実現するために掲げられた5つの基本目標のために市が実施している様々な事業において、特に市民の意識を確認したい項目を抜粋し行われるもので、今後のまちづくりや市の施策などに活かすことを目的とするほか、市民が行政の取り組みをどのように評価しているかを確認するために実施されています。

…今年の調査も昨年同様2月1日現在における市内在住の18歳以上の市民3,000人を無作為抽出し、郵送により配布、回収という方法で実施しましたが、昨年は1,121人の回答が得られていたのに対し、今年は残念ながら970人(全体の32.2%)からしか回答が得られませんでした。市民意識調査については、各項目の回答や自由意見を重要視しなければならないことは当然ですが、この回答数が減少したことも、市民の意識、すなわち行政への関心度を測る一つの指標ともいえると思います。

【今年の市民意識調査の回答者】

【性別】男性:421人(43.4%) 女性:529人(54.5%)
選択せず:9人(0.9%) 無回答:11人(1.1%)

【年齢】

18～19歳	19人
20～29歳	78人
30～39歳	117人
40～49歳	180人
50～59歳	193人
60～64歳	101人
65歳以上	271人
無回答	11人

【職業】

自営業	44人
会社員・公務員	376人
アルバイト・パート	156人
主婦・主夫	173人
学生	39人
無職	151人
その他	18人
無回答	13人

【住んでいる地域】

芋窪・蔵敷地区	115人
奈良橋・湖畔・高木地区	117人
狭山・清水地区	113人
立野・上北台地区	97人
中央・南街地区	132人
仲原・向原地区	125人
清原・新堀地区	59人
桜が丘地区	203人
無回答	9人

■調査内容は

…毎年実施される市民意識調査の設問については、定番的なものと、市が特に確認したい個別具体的な取り組みについて設定されており、今年も多く項目が昨年と同様の物でした。しかし、下記(9)は昨年は『家庭廃棄物について』だったものにリサイクルが追加されたほか、(11)については昨年は「産業振興について」となっていたものが「創業・開業について」とより具体的に。また、(10)と(13)と(15)が今年新たに追加されました。一方、昨年あった『スマートフォン専用の観光・子育てアプリについて』、『東大和元気ゆうゆう体操について』、『健康・医療について』という項目は、今年の調査から外されました。

【今年の調査項目】

- (1) あなた自身のことについて
- (2) 定住意向について
- (3) 東大和市のブランド・メッセージについて
- (4) 東大和市の施策について
- (5) 東大和市の行政サービス及び行財政運営の取り組みについて
- (6) 広報広聴及び情報公開について
- (7) 地域活動・地域コミュニティについて
- (8) 生活環境について
- (9) 家庭廃棄物のリサイクルについて
- (10) 老人福祉施設について
- (11) 創業・開業について
- (12) 子育て環境について
- (13) 公園の利用状況について
- (14) ちよこバスについて
- (15) スポーツ・運動・生涯学習について
- (16) 消費生活センターについて

■定住意向は

…市民意識調査については、年齢、住んでいる地域など様々な3000人を対象としており、また、回答者も今回は1000人に満たなかったため、“市民の総意”ということはいきなり難しいですが、ここで出てきた“傾向”については、重要視すべき事柄も多くあります。

…特に、人口減少に歯止めをかけることを大きな目標としている市にとっては、定住意向は重要な項目。今回の調査の定住意向の結果の概要は、昨年の調査と同様に年齢層が上がるほど「今の場所に住み続けたい」傾向が高くなり、また、居住開始時期が早いほど＝長く住んでいるほど、定住意向が高くなるという当然の結果に。また、定住を望む理由として「家や土地を持っているから」、「住み慣れているから」、「周辺の住環境が良いから」という理由を40%以上の方が挙げています。

(裏面に続く)

…一方で、「できれば市外に移りたい」、「今すぐにも市外に移りたい」と回答した人は114人（全体の11.7%）。その理由の上位3つは「通勤・通学に不便だから」（36.8%）、「各種施設が不足しているから」（31.6%）、「周辺の住環境が良くないから」（26.4%）となっています。

…東大和市が地理的に動くことは不可能ですので「通勤・通学に不便だから」という点についての解決策は公共交通の手段を増やすぐらいしか考えられませんが、「各種施設が不足しているから」と「周辺の住環境が良くないから」については、内容や状況によっては行政で改善できるポイントです。

■調査結果で気になった点は

…調査項目の回答については、年齢、家族構成、住んでいる地域などを組み合わせた様々なクロス分析なども行われ、その結果も細かく報告書には書かれていますが、特に顕著な傾向などについては、結果概要で示されています。その中で注目した結果は、以下の通りです。

◆東大和市のブランド・メッセージについて

東大和市のブランド・メッセージ（＝東京ゆったり日和東やまど）の認知度は「知っている」が3割近く。ロゴマークの認知度は「知っている」が2割超。

◆東大和市の施策について

第四次基本計画の基本目標ごとの重要度をみると、「非常に重要」と「重要」を合わせた「重要と感じる」が「環境にやさしく安全で快適なまちづくり」及び「健康であたたかい心のかよいあうまちづくり」が8割を超えている。満足度に関しては、「非常に満足」と「満足」の合計「満足している」は「環境にやさしく安全で快適なまちづくり」で2割強と最も高くなっている。

【各施策の重要度と満足度】

※“非常”に重要・満足と重要・満足と回答した合計の%

基本目標	重要	満足
豊かな人間性と文化をはぐくむ まちづくり	76.3%	18.5%
健康であたたかい心のかよいあう まちづくり	81.9%	17.3%
暮らしと産業が調和した活力ある まちづくり	54.6%	9.8%
環境にやさしく安全で快適な まちづくり	82.1%	23.3%
相互の理解と協力に支えられる まちづくり	55.0%	10.2%

◆行政サービス及び行財政運営の取組みについて

市の行財政運営の取組みに対する評価は、「よく取り組んでいると思う」と「ある程度取り組んでいると思う」を合わせた「取り組んでいると思う」は2割台半ばで、年齢別にみると【65歳以上】で3割を超えており、他の年齢に比べ高くなっている。一方、「努力が足りないと思う」と「やや努力が足りないと思う」を合わせた「努力が足りないと思う」の1割台半ばで年齢別にみると【60～64歳】で2割を超えており、他の年齢に比べ高くなっている。市が適正な行財政運営を進めるために重要なことは、「市民の意見を取り入れる」が4割近くと最も高く、次いで「職員の意識改革を図る」、「情報発信を充実させる」及び「公共施設や窓口のサービスを向上させる」がいずれも3割近くとなっている。

◆家庭廃棄物のリサイクルについて

ペットボトル自動回収機の利用は、「利用している」が3割台半ば。ペットボトル回収機を利用していない理由は、「設置されている場所を知らない」が3割を超え最も高く、次いで「設置されている場所が近所がない」が2割台半ばとなっている。

◆老人福祉施設について

老人福祉施設（お風呂もある高齢者の集会所）の利用の有無は、「利用していない」が9割台半ばとなっている。老人福祉施設に望むことは、「年齢による利用条件をなくし、幅広い世代と交流できる施設にしてほしい」が3割を超え、最も高く、次いで「生活・健康相談の充実」が3割近く、「現在のままでよい」が2割台半ばとなっている。

◆子育て環境について

東大和市は「子育てしやすいまち」だと4割以上の方が思っており、その理由は「自然環境が良い」が6割台半ばと最も高く、次いで「治安が良い」が約5割となっている。一方、「子育てしやすいまち」だと思わない理由として2割強の人が「子どもが遊べる公園が充実していない」ことを挙げている。市で実施してほしい子育て支援事業は、「子どもの居場所」が4割台半ばと最も高く、次いで「子どもの学習支援」が3割台半ば、「子ども食堂」が2割台半ばとなっている。

…各項目の細かい調査結果は昨年と比較して大きく変化したものはないものの、自由意見はとても興味深く読みました。ただし、前述のこの調査の目的を考えると、この結果をより活かしやすくするために設問の設定には工夫ができる点もあるように感じました。（設問の選ぶ回答がはっきりしないと自由意見が多くなるように感じます）

…また、調査に参加された方は多くの設問に回答するために、かなりの時間を使われたと思います。よって、調査がどのように活かされるのかも気になっているのではないのでしょうか。市がこの調査結果をどのように活かしているのかという点は、今一つ伝わってこない現状を考えると、市は機会を捉えて活用状況を市民に伝えることも必要。そうすれば、より多くの方がこの調査に積極的に協力するようになると思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
 ✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
 〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102